※内ケイ・・・・印面　W800mm×H728mm　※外ケイ・・・・ワク 外寸　W840mm×H768mm

子どもの不慮の事故

子どもの不慮の事故による死亡が後を絶ちません。まだ寝返りができない赤ちゃんでも、事故やけがの危険はあります。そして、ハイハイ、たっち、あんよ・・・と成長するに伴い、危険な場面も増えています。愛知県や全国の「年齢別の不慮の事故による死亡原因」から、ねんねの時間が多い0歳では窒息による死亡が多く、行動範囲が広がるにつれ、交通事故や溺水・溺死が増えていることがわかります。

年齢別の不慮の事故による死亡順位

（全国　平成22年）

年齢	第1位 死因	死亡数 / 割合	第2位 死因	死亡数 / 割合	第3位 死因	死亡数 / 割合	第4位 死因	死亡数 / 割合
0歳	窒息	85 / 75.2%	交通事故	9 / 8.0%	溺水及び溺死 転倒・転落	6 / 5.3%	溺水及び溺死 転倒・転落	6 / 5.3%
1～4歳	交通事故	44 / 29.1%	溺水及び溺死	32 / 21.2%	窒息	28 / 18.5%	煙・火災	21 / 13.9%
5～9歳	交通事故	56 / 44.8%	溺水及び溺死	34 / 27.2%	煙・火災	11 / 8.8%	窒息 転倒・転落	10 / 8.0%
10～14歳	交通事故	45 / 37.2%	溺水及び溺死	34 / 28.1%	煙・火災	13 / 10.7%	窒息 転倒・転落	11 / 9.1%

「不慮の事故」による死亡原因の年齢比較

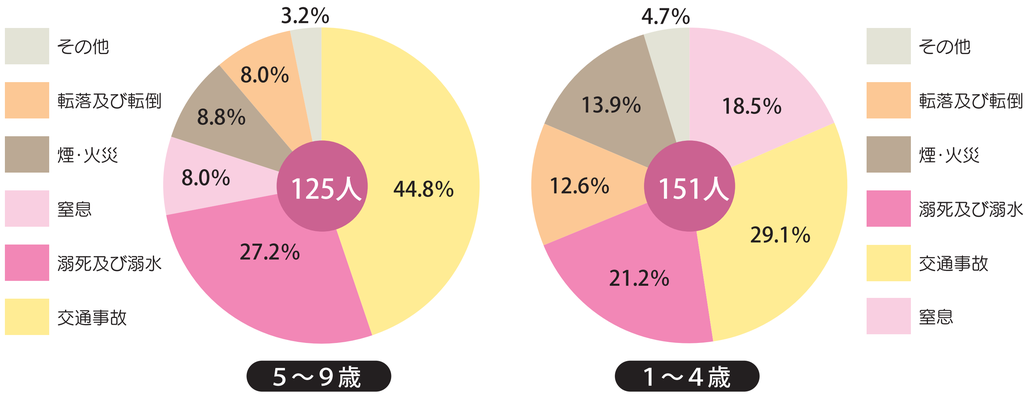
（平成22年人口動態統計より）

5～9歳児の半分近くが交通事故

5歳以上になると屋外での行動範囲も一段と広がるため交通事故による死亡は、事故死の5割近くを占めるようになります。

1～4歳児に多い交通事故と溺死

1～4歳児の事故死は、交通事故と溺死が5割を占め、窒息がそれに次いでいます。



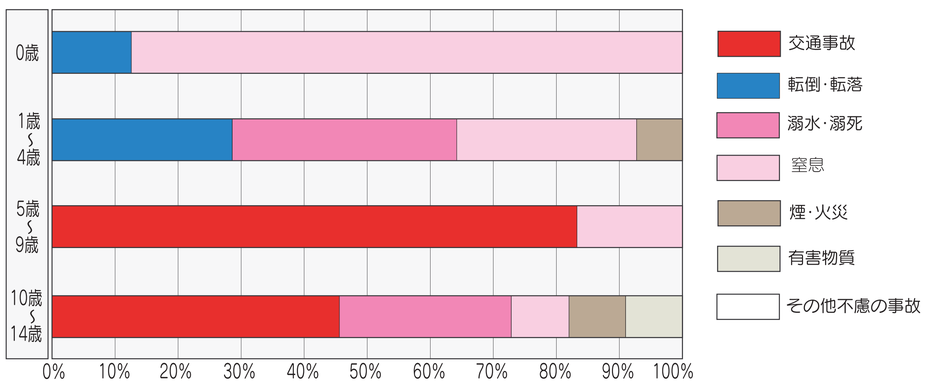
愛知県　年齢別にみた死亡順位

（愛知県の母子保健に関する統計　平成22年）

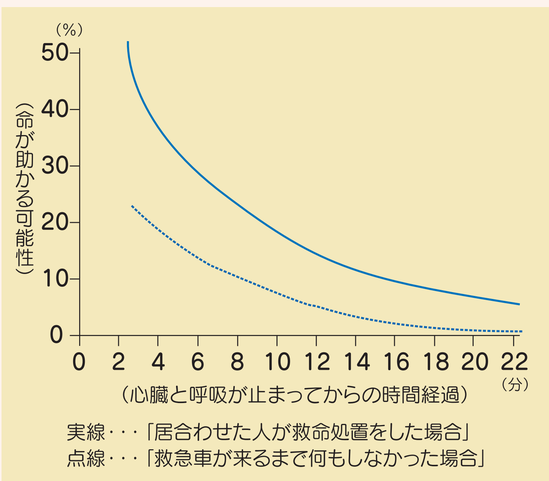
年齢	第1位 死因	死亡数 / 割合	第2位 死因	死亡数 / 割合	第3位 死因	死亡数 / 割合	第4位 死因	死亡数 / 割合	第5位 死因	死亡数 / 割合
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	67 / 43.8%	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	16 / 10.5%	不慮の事故	8 / 5.2%	心疾患	6 / 3.9%	出生児仮死	5 / 3.3%
1～4歳	先天奇形、変形及び染色体異常	19 / 34.5%	不慮の事故	14 / 25.5%	肺炎	6 / 10.9%	腸管感染症	4 / 7.3%	その他の感染症	3 / 5.5%
5～9歳	悪性新生物	9 / 26.5%	不慮の事故	6 / 17.6%	・先天奇形、変形及び染色体異常 ・その他神経系疾患	3 / 8.8%	・先天奇形、変形及び染色体異常 ・その他神経系疾患		腸管感染症 その他の外因	2 / 5.9%
10～14歳	不慮の事故	11 / 24.4%	悪性新生物	9 / 20.0%	心疾患	5 / 11.1%	自殺	4 / 8.9%	・先天奇形、変形及び染色体異常 ・その他神経系疾患	3 / 6.7%

愛知県　年齢別の不慮の事故による死亡原因（平成22年）

	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳
不慮の事故総数	8 100%	14 100%	6 100%	11 100%
交通事故	0 0.0%	0 0.0%	5 83.3%	5 45.5%
転倒・転落	1 12.5%	4 28.6%	0 0.0%	0 0.0%
溺水及び溺死	0 0.0%	5 35.7%	0 0.0%	3 27.3%
窒息	7 87.5%	4 28.6%	1 16.7%	1 9.1%
煙・火災	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	1 9.0%
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%
その他の不慮の事故	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%



心臓と呼吸が止まってから、救命処置開始までの時間と救命率の関係



時間の経過により
救命チャンスは低下し
救命処置の実施が、
救命のチャンスを高めます。

そばにいる親がどれだけ早く救命処置を始められるかが救命のカギです。
もしもの時のために、心肺蘇生術をマスターしてください。

注意! 協力者がいない場合、まずは119番通報、そしてすぐに心肺蘇生を開始